

## 技術と社会部門 2013 年度部門賞 優秀講演論文表彰受賞者挨拶

学生がどうなろうと知ったことではない

加藤義隆(大分大学)

2011年9月に東京工業大学大岡山キャンパスで開催された年次大会の技術教育・工学教育のセッションで発表した、「アンケートを指導の手段に用いる学習態度改善の試み」を評価して頂き、大変感謝しております。発表してから数年が経ったため、現在では取り組みの対象となった学生グループの進級率が従来の学年に比べて改善したことをここに報告します。

発表では、学生に説教する手段としてアンケートを用いた取り組みを紹介しました。そのアンケートは、質問が大きく二種類に分かれ、既に授業で課して解説した問題の解を求めて回答させるものと、設問と選択肢が説教になっているもので構成されます。既に出題した問題を問う意図は、学生に自身の不勉強を自覚させることでした。「理解したつもりだった」という学生に少なくない勘違いも、実際に解かせることで防げたと考えられます。説教の方は、回答のために読む質問が説教になっている仕組みで、選択形式では選択肢に望ましいものから不適切なものまで並べるものや、テスト前に確保できる勉強時間を考えさせるものがあります。口頭で注意しても上の空で聴いてもらえませんが、回答の過程で嫌でも説教を読まなければいけない仕組みが狙いです。

取り組みの発端は、ある機械系学科に所属する学生の集団において、自主的に学習する習慣の欠如した学生が増えたことでした。私生活に関わる部分もあり、また問題が顕在化しない時点では指導も困難です。学生も相応の歳であり、一通りの注意をしたら、学生がどうなろうと知ったことではないと思います。卒業生が大金を稼いでも寄付の強要はしないでしょうし、卒業生が惨めな状況であっても、不憫だと勝手に心を痛めるだけで助ける自信もありません。技術者教育の課程を修めることが、一律に入学者全員にとって幸せとも限りません。そうは言っても、近い将来ドロップアウトすることが確実と思われる状況は、損失であり、学生も不憫です。

うまくいかないことばかりですが、仕事の範囲内でできることを取り組みたいと思います。講演会での聴講も含め、より良い方法を模索し続けます。この記事を縁に、アンケートを使った説教を試してくださる方が居るようでしたら幸いです。

(受賞時の写真は、ニュースレターNo. 30の年次大会レポートに掲載されるため、割愛します。)

日本機械学会技術と社会部門ニュースレター: <http://www.jsme.or.jp/tsd/news/index.html>

日本機械学会

技術と社会部門ニュースレターNo.30

(C)著作権: 2014 一般社団法人日本機械学会 技術と社会部門